

I 学校教育目標 共に育つ ～ 考えをみがく 心をみがく 仲間とみがく ～

II 前年度に残された課題	III 本年度の重点課題	IV 来年度に残された課題
<p>○児童が自己有用感を感じられるような取組を充実させて、自己肯定感の向上を図る。 ○ケース会議の取組を充実させ、生徒指導上の問題に組織対応する仕組みを確立する。 ○基礎・基本的な内容の確実な定着を図るために、指導法をさらに工夫して充実させる。 ○朝学習の内容を家庭に周知し、学校と家庭が連携して児童の基礎学力の定着を図る。 ○学校と家庭が連携して取組を進め、児童に学習習慣や読書週間に身に付けさせる。 ○様々な方法で児童同士の意見交流を活性化し、思考力・判断力の育成を図る。 ○授業公開・研究討議を通じて教職員が学び合うことで授業力向上を図り、児童の学力向上へとつなげる。 ○特別の教科道徳における「考え議論する道徳」の在り方について研修を深める。 ○コロナ禍における体験的学習の充実を図り、多様性のある豊かな学びを児童に経験させる。 ○教育活動全般を通じて、児童の体力向上を図る。 ○学校運営協議会の設置に伴い、学校と地域の協働の在り方について知見を深める。 ○校内の安全対策や危機管理についての対応を一層高める。</p>	<p>【考えをみがく】 ①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、指導法の工夫に取り組む。 ②他者と交流しながら考えを深める力を着実に育てる。 ③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。 【心をみがく】 ④児童に関する課題を共有し、全職員でルールの徹底とマナーの育成に取り組む。 ⑤自己の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる。 ⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる。 【仲間とみがく】 ⑦話し合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす。 ⑧集団でのかかわりの場を通して、社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する。 ⑨「体づくり運動」の充実と、体力・運動能力向上の取組をすすめる。</p>	<p>○児童が自己有用感を感じられるような取組を充実させて、自己肯定感の向上を図る。 ○指導法をさらに工夫して充実させ、基礎・基本的な内容の確実な定着を図り、児童の自己肯定感を育む。 ○学校と家庭が連携して取組を進め、児童に適切な時間での学習習慣や読書週間に身に付けさせる。 ○授業公開・研究討議を通じて教職員が学び合うことで授業力向上を図り、児童の学力向上へとつなげる。 ○様々な方法で児童同士の意見交流を活性化し、思考力・判断力の育成を図る。 ○特別の教科道徳における「考え議論する道徳」の在り方について研修を深める。 ○コロナ禍における体験的学習の充実を図り、多様性のある豊かな学びを児童に経験させる。 ○教育活動全般を通じて、児童の体力向上を図る。 ○学校運営協議会の設置に伴い、学校と地域の協働の在り方について知見を深める。 ○校内の安全対策や危機管理についての対応を一層高める。</p>

「1」(重点課題番号)	[2] 具体的達成目標と評価指標	[3] 自己評価		[4] 外部アンケートの分析		[5] 自己評価		[6] 学校関係者評価	
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化	中間評価		児童生徒アンケート		最終評価(成果と課題)		課題の改善策等	
	公表日 5/14 6/30	評価日 10月6日	実施日 9/7～9/16 12/13～12/21	実施日 12/21～1/21	評価日 2月9日	評価日 3月2日			
	公表方法 <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	公表方法 <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	公表日 3/2 3/22	公表日 3/2 3/22	公表日 3/2 3/22	公表日 3月22日	
①	<p>○朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることで、基礎学力の定着を図る。 ○「自主学習の手引き」により、適切な学習時間を家庭に示して児童や家庭に家庭学習の充実を促し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>B ・基礎学力の定着を図るために、朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた【肯定的意見95%】 ・「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた【肯定的意見70%】</p>	<p>・朝の学習や家庭学習をわすれずに行うことをがんばった【肯定的意見81%(中間)→83%(年度末)】 ・適切な時間での家庭学習ができた【肯定的意見62%(中間)→64%(年度末)】</p>	<p>B ・お子さんは、朝の学習や家庭学習を通じて基礎学力を定着させていますか【肯定的意見79%】 ・お子さんは、「自主学習の手引き」で示した学年毎の目安の時間、家庭学習をしていますか【肯定的意見58%】</p>	<p>・基礎学力の定着を図るために、朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた【肯定的意見95%(中間)→95%(年度末)】 *中間、年度末共に肯定的意見が95%であり、達成できた。教員と保護者の意識に多少の乖離が見られる。 ・「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた【肯定的意見70%(中間)→63%(年度末)】 *肯定的意見が、中間に比べ、年度末では7ポイント下降した。児童、保護者、教員の三者の肯定的意見の割合が低く、次年度に改善が必要であると考える。</p>	<p>・学校だよりや学年だより、ツイッター等を活用して、学習内容等の情報発信を行う。 ・学校だよりや学年だより等で「自主学習の手引き」の周知徹底を図るとともに、適切な家庭学習時間について啓発の充実を図る。課題内容を精査し、各学年に応じた課題を与えるようにする。</p>	<p>・適切な時間での家庭学習の習慣については、家庭への啓発以外にも、学校から出される宿題や課題の量について見直しを図る必要があるのではないか。家庭環境によっても差が生じるところと思うので、家庭学習の内容を吟味していく必要があると思う。学校からのフォローがほしい。</p>		
②	<p>○特別の教科道徳において、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現することで広めるという活動を取り入れることで、「考える道徳」議論する道徳の実践を目指す。 ○学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することで考えを深める力を着実に育てる。</p>	<p>B ・「考える道徳」議論する道徳を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた【肯定的意見81%】 ・考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた【肯定的意見95%】</p>	<p>・自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた【肯定的意見72%(中間)→81%(年度末)】 ・学習した内容が、どんな内容だったか分かった【肯定的意見85%(中間)→87%(年度末)】</p>	<p>A ・お子さんは、学習して分かったことや自分の考えを、ノートやプリントに書いていましたか【肯定的意見61%】 ・お子さんは、学校での学習内容を概ね理解できていますか【肯定的意見88%】</p>	<p>・「考える道徳」議論する道徳を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた【肯定的意見81%(中間)→89%(年度末)】 *中間期に比べて8ポイント上昇し、達成できたと考える。教員、児童と保護者に意識の乖離が見られる。 ・考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた【肯定的意見95%(中間)→95%(年度末)】 *三者ともに肯定的意見の割合が高く、達成できたと考える。</p>	<p>・児童の活動を学級通信等で情報発信することで学習活動について周知し、理解を得るようにする。</p>	<p>・ノートやプリントの自分の考えや思いを表現する活動については、保護者のアンケート結果が低い評価であったが、児童の活動を学級通信等で情報発信してもらうことで結果も変わってくるのではないかと考える。</p>		

③	○学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定する。	B ・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた 【肯定的意見82%】	・自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた 【肯定的意見61%（中間）→71%（年度末）】	・おじさんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言うようになってきましたか 【肯定的意見83%】	A ・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた 【肯定的意見82%（中間）→91%（年度末）】 *児童、教員共に中間期と比べ、10ポイント近くの上昇が見られ、達成したと考える。	・今後も、書くことで考えをまとめ、分かりやすく伝える活動を継続して、考えや思いを伝えるという経験を見重にさせていく。	・授業中に考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく伝える活動を通じて、児童に考える力が身に付いてきているのではないかと、1年間継続してきたことが、アンケートの肯定的意見の伸びにあらわれている。
④	○「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることを大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させる。 ○児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図る。	A ・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることを大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させた 【肯定的意見95%】 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた 【肯定的意見81%】	・学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守った 【肯定的意見88%（中間）→87%（年度末）】	・おじさんは、家でのきまりや交通ルール、友達との約束を守ることができていますか 【肯定的意見87%】	A ・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることを大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させた 【肯定的意見95%（中間）→100%（年度末）】 *肯定的意見の割合が100%であり、三者ともに高評価のため十分達成できたと考える。 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた 【肯定的意見81%（中間）→96%（年度末）】	・生徒指導部を中心に始めた、廊下歩行徹底のためのポスター掲示の取組や、黙々清掃見回りの取組を継続させ、児童の規範意識のさらなる向上を図る	・ルールやマナーを守ることの意義を児童らに指導することで、子どもたちはマナーを身に付けてきている。登下校に出会うと、挨拶をしてくれる子どもが増えてきている。 ・児童の情報共有の充実を図り、学校全体で児童の見守りや指導を行う体制整備を継続して行う。
⑤	○教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導する。 ○ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートを記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設ける。	A ・教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた 【肯定的意見86%】 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた 【肯定的意見91%】	・学校の先生、友だち、近所の人に、丁寧な言葉遣いを使った 【肯定的意見85%（中間）→86%（年度末）】	・おじさんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉遣いを使っていますか 【肯定的意見86%】	B ・教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた 【肯定的意見86%→96%（年度末）】 *中間期に比べて10ポイントの上昇が見られ、三者ともに高評価であるので、十分達成できたと考える。 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた 【肯定的意見91%→82%（年度末）】 *中間期に比べ、9ポイントの下降が見られるが、それでも肯定的意見の割合が82%であり、達成できたと考え。しかし、児童の自己肯定感の確立のためにあらゆる場面での働きかけが必要であり、年間を通じて自己成長を確かめる場面設定を行っていきたい。	・教育活動全般を通じて、児童への指導を継続していく。また、教員自身が児童のお手本となるよう、正しく丁寧な言葉遣いをするように、職員会議等で呼びかける。 ・様々な教育活動において、児童の自尊感情の醸成を図ることを意識した働きかけの充実を図っていく。	・自己肯定感の向上のためには、お互いがかけがえのない存在であるということを家庭に伝え、家庭から子どもたちへ働きかけてもらう必要があるのではないかと。 ・活動の振り返りを行う際に、自己のよきや成長を振り返ることも大切だが、他のよきも認められるような設問があってもよいのではないかと。
⑥	○ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への思いやりの心を児童に育む。	B ・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた 【肯定的意見95%】	・ふれあいタイムで、ちがう学年の人と協力することができた 【肯定的意見79%（中間）→91%（年度末）】 ・年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした 【肯定的意見70%（中間）→76%（年度末）】	A ・おじさんは、違う学年の子とも仲良くしていますか 【肯定的意見90%】 ・おじさんは、年下の子を大事にしようとしていますか 【肯定的意見93%】	A ・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた 【肯定的意見95%→91%（年度末）】 *肯定的意見の割合が9割以上であり、三者ともに高評価のため十分たっせいできたと考える。児童の肯定的意見の割合が12ポイント上昇しているのは、たてわり活動のみならず、人権教育や道徳教育、学級活動等あらゆる場面を捉えて、児童に思いやりの心を涵養することができた体と考える。児童の肯定的意見の割合のさらなる向上を目指し、学校全体として取組を継続させる必要がある。	・他者、特に立場の弱い者への共感を、たてわり活動の継続も含め、人権教育や道徳教育など、全ての教育活動を通じて児童に涵養していく。	・幼稚園との交流を通じて、児童に思いやりの心や自己有用感を育むことはできるし、実際に育めていると感じる。 ・教員の子どもたちへの働きかけ一つで、子どもたちの心は磨かれると思う。子どもたちへの働きかけを大切にしてほしい。 ・地域の人のとの関わりでも子どもたちの心は磨かれるので、その視点を総括に入れるということも必要ではないかと。
⑦	○自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させる。 ○ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てる。	B ・自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた 【肯定的意見52%】 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた 【肯定的意見86%】	・学級会で、よく考えて自分の意見を言った 【肯定的意見55%（中間）→63%（年度末）】 ・ふれあいタイムでは、みんなで仲よく遊ぶには、どうしたら良いかを考えて行動できた 【肯定的意見79%（中間）→83%（年度末）】	A ・おじさんは、人の意見をよく聞いてから自分の意見を言おうとしていますか 【肯定的意見72%】 ・おじさんは、たてわり活動を通じて異学年の児童との関わりを深め、協調性を身に付けていますか 【肯定的意見91%】	A ・自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた 【肯定的意見52%→95%（年度末）】 *教員は43ポイント、児童は8ポイント上昇しており、概ね達成できたと考え。しかし、年度末の児童の肯定的意見は63%にとどまり、今後、継続して取り組んでいかなければならないと考える。 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた 【肯定的意見86%→91%（年度末）】 *教員、児童ともに、中間期に比べ肯定的意見の割合が上昇して改善が図られたため、達成できたと考える。	・児童が、自身を安心して表出できるような学級づくりを進めつつ、今年度、取組を進めてきた発言することが苦手な児童のために、タブレットを活用して意見を述べさせることも継続していく。 ・特活部からの書く活動の提案時に、活動内容についての提案だけでなく、活動を通じて児童に協働的な課題解決の力を育成するという視点も含めて提案するようにする。	・ICTを活用することで、人前で発表することが苦手な子どもも自分の意見を表現することができる。これからもICTを授業で活用して行ってほしい。 ・少子化、核家族化が進んでいる現状において、異年齢の子どもたちが集って活動するふれあいタイムは貴重である。違う学年の児童の指導は大変だと思うが、これからは非継続して欲しい。

⑧	<p>○ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるようにする。</p> <p>○委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにするべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるようにする。</p>	<p>A</p> <p>・ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた【肯定的意見91%】</p> <p>・委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにするべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた【肯定的意見91%】</p>	<p>・気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った【肯定的意見83%(中間)→91%(年度末)】</p>	<p>・お子さんは、委員会活動を通じて、自分が人の役に立っていることを認識していますか【肯定的意見96%】</p>	<p>A</p> <p>・ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた【肯定的意見91%→91%(年度末)】 *中間、年度末共に肯定的意見の割合が91%であり、十分達成できたと考える。</p> <p>・委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにするべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた【肯定的意見91%→91%(年度末)】 *三者ともに肯定的意見の割合が高く、特に児童は中間期と比べて8ポイント上昇しているため、十分達成できたと考える。</p>	<p>・次年度も、ふれあいタイムで、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援のあり方を特活部が提案し、各々の教員は毎回の活動において自身の支援のあり方が適切であったか振り返るようにする。</p> <p>・今年度同様に、お昼の放送で各委員会から活動の紹介を行い、全校児童が委員会活動についての認識を深めることで、高学年児童への感謝の気持ちを持てるように支援する。</p>	<p>・少子化、核家族化が進んでいる現状において、異年齢の子どもたちが集って活動するふれあいタイムは貴重である。違う学年の児童の指導は大変だと思うが、これからは是非続けていってほしい。</p> <p>・異学年交流をすることで、高学年の子どもに責任感を身に付けるなどの育ちを望むことができるが、高学年の児童の姿を見ることで低学年の児童たちも育つことができると思う。</p>
⑨	<p>○体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図る。</p> <p>○たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図る。</p> <p>○外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行う。</p>	<p>B</p> <p>・体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見85%】</p> <p>・たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見59%】</p> <p>・外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた【肯定的意見71%】</p>	<p>・体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した【肯定的意見88%(中間)→91%(年度末)】</p> <p>・ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした【肯定的意見83%(中間)→90%(年度末)】</p> <p>・休み時間には、外に出て遊んだり、体を動かしたりした【肯定的意見70%(中間)→74%(年度末)】</p>	<p>・お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか【肯定的意見77%】</p>	<p>B</p> <p>・体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見85%→90%(年度末)】 *中間期と比べ5ポイント上昇し、十分達成できたと考える。</p> <p>・たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見59%→73%(年度末)】 *中間期と比べ14ポイント上昇し、概ね達成できたと考える。教員と児童に意識の乖離が見られるが、教員はたてわり活動だけで体力向上が図られていると考えていないからではないかと考える。</p> <p>・外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた【肯定的意見71%→75%(年度末)】 *三者ともに、肯定的意見の割合が7割を超えており、概ね達成できたと考える。体力向上の観点から、さらなる改善を図っていきたいと考える。</p>	<p>・体育部から体力向上ステップアップシートを示し、本校の体力向上の取組について共通理解を図る。</p> <p>・運動場での班遊びを決める際に、体を動かして遊べる遊びの紹介をしていく。</p> <p>・体育部より体力向上のための遊びの紹介を行い、各学級で外遊びが推進されるよう働きかける。</p>	<p>・中間、年度末ともに児童の評価が高く、教育活動が効果的に進められていると思う。今後も継続して取り組み、児童の体力向上を図ってほしい。</p> <p>・異学年が交流して遊ぶことで、知らない間に体力向上が図られていると思う。</p>